

ここが聞きたい!

いっぱん

内田精彦 議員

横田肥育センターの 今後の考えは

町長 平成26年度から一部模様替えをし
利用転用の方針



問 近年の奥出雲町の和牛飼育戸数65%の減、飼育頭数47%の減。をどう考えているのか。

答 舟木農業振興課長

全国、県内、他市町村

でも同様の状況で兼業農家はもとより特に多頭飼いでいる専業農家の減少も続いております。歯止めがきかない状況である。雲南管内では全体頭数1千877頭で、奥出雲町は全体の繁殖牛については58%で、益田市、出雲市に次いで3番目の頭数である。

問 先般開催された島根中央子牛共進会で奥出雲出品牛が上位に、またグランドチャンピオンも獲得した。優秀な飼育者また優良牛に何らかの対策が必要では。

答 秋の共進会では、奥出雲が上位をすべて占める輝かしい成績を残す事ができた。牛の飼育の状況は年々厳しくなっており、頭数も少なくなっている。現実には実態として認識している。こうした状況の中で、新たな和牛振興の取り組みには地域農業の将来を担う営農組織や若年経営者グループの発掘育成が必要、町としても

将来の畜産振興に最大限の努力をしていく。

問 現状の支援策、優良牛保留事業1頭10万円、共進会上位3席までについては、さらに5万円を上乗せする支援策の拡充の考えは。

答 特に優良な基礎の雌牛及び候補牛への支援拡充については、全共出品対策協議会において早期段階から助成金等の支援制度の検討を進めている。可能な限りの支援の拡充を検討する。

問 現在休止中の横田肥育センターについて、どのような考えをもって

のか。Uターナー者に畜産に対する呼びかけ等はどうか。Uターナー者で畜産を誘致する取り組みも考えている。当センターについては、H26年度より一部を模様替えし利用していく方針。規模としては、5年後のH30年には繁殖雌牛100頭、子牛80頭の計画で、法人もしくは3戸以上の畜産経営をしている担い手となる若者組織や集落組織による経営も検討対象と考えているが、難しい問題もあり、町の農業公社で組織運営を担い、いずれにしても和牛の繁殖等について何としても組織したい。

問 奥出雲町職員定数条例の定数と、実際の職員数の現状は。

答 川本総務課長
平成25年4月1日付の職員数は、各部署合わせ定数331に対し249である。

答 川本総務課長
嘱託178人、臨時49人の計227人である。

役場職員数の推移

(単位:人)

区分	H19 定数	正規職員数						H25.4.1現在			
		H19	H20	H21	H22	H23	H24	正職	嘱託	臨時	計
町長	178	117	111	110	108	110	120	37	14	171	
部局	108	95	91	89	85	89	104	90	19	213	
議会事務局	2	1	1	1	1	1	2	0	1	3	
教育委員会	41	31	30	28	31	28	22	51	14	87	
事業委員会	2	1	1	1	1	1	1	0	1	2	
計	331	245	234	229	226	229	249	178	49	476	

問 H25年度は定数に対し25%の職員数の空きがある、正規職員採用等の考えは。

答 近年雇用の形態がどんどん多様化している。民間企業、都道府県、島根県庁、県内の市町村の数値を比較してみなければならぬが正規職員として採用を希望される人についてはチャンス窓を用意する必要があると思う。